

みなかみ地域は山地帯（標高 700～1,600 メートル）と亜高山帯（標高 1,600 メートル以上）からなる。この環境は、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザルといった様々な哺乳類や、多くの渡り鳥・留鳥を支えている。谷川連峰（たにがわれんぼう）には標高 2,000 メートルを超える山はほとんどないものの、標高の高い場所では積雪が多く強い風が吹くため、複数の高山種が生息している。谷川岳（たにがわだけ）には、樹木限界よりも高地にある岩がちの崖を住処とするイワヒバリやカヤクグリなど、高山性のスズメ目の鳥が生息している。山を下っていった場所では、人目を引くキビタキやオオルリなど木を住処とする鳥がブナの森で暮らしている。ブナの木が枯れると、コゲラやゴジュウカラなどの鳥が幹に巣を作る。また川べりでは、鮮やかな色をしたカワセミや、見事な冠羽のあるヤマセミも見ることができる。

在来種の爬虫類の中では、マムシやヤマカガシなどの毒へびに注意が必要である。在来種の両生類には、特別天然記念物に指定されているトウホクサンショウウオとモリアオガエルの 2 種を含めた様々な種類がいる。